

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員個々が理念を認識し、スタッフルームと内玄関に掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念に掲げた内容が実施できているか、日々の支援の中でお互いに話し合いながら取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族や面会の方、また、ボランティアの方が来られた時など、お話をさせてもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の魚屋さんへ利用者さんと一緒に行ったり、また、地域の八百屋さんなど来られた時や利用者さんの知人の方などに気軽にいつでも立ち寄ってもらえるよう声かけしている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域で夏祭りなどあれば参加させてもらっている。また、老人会などのボランティアの方にも来てもらっている。アルミ缶やダンボール集めは続けてお手伝いさせてもらっている。保育園の園児たちにも来てもらい、お誕生日会などを行っている。	○ 地域の人達との花見はなかなかできないが、今夏よりボランティアグループ愛の花に参加させていただき、市役所玄関やその周辺の草むしり・花植え等をお手伝いさせてもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	GHの利用者さんの方への支援で地域の高齢者の方への暮らしについて話し合った事がない。地域の公園に散歩に行った時に地域の高齢者の方とお話をしている。	○	施設で行事やお誕生日会に地域の独居老人の方などに参加してもらいたいと思っているが、個人情報などで把握が難しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を職員で話し合い、できていない所は評価を活かして取り組んでいる。	○	前回の評価内容を職員全員に確認してもらい、今回の自己評価に取り組んだ。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見などを取り入れてサービス向上に活かしている。	○	2ヶ月に1回取り組んでいる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席してもらっている。また、解らない所があれば直接出向き相談に乗ってもらったり、アドバイス等を受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会を設けて成年後見制度について話し合っているが、理解不十分な職員もいるので勉強していく。(成年後見人制度を利用している方がいる)	○	社会福祉協議会の学習会に2回ほど参加して成年後見人制度を勉強している。機会があれば、参加していきたいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が身体的暴力や言葉の暴力がないようお互い気をつけている。	○	身体拘束や虐待について勉強会をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	毎月金銭出納帳のコピーを利用料請求の時にお送りし、ご家族が面会においでた時、確認印を押してもらっている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	管理者だけでなく、職員も同業者との交流を持ち相互訪問したいと思っているが実現できていないのが現状である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の方より相談があった際は、その時々に応じて対応している。他の施設サービス等含め、助言したり関連施設と連携を取り合い対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人やご家族に見学等してもらっている。すぐにご利用となる場合は、本人が落ち着くまでご家族に面会に来てもらっている。また、職員も本人に声かけし安心してもらえるように雰囲気づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯物たたみ、後片付け、掃除など一緒にしている。表情や発する言葉から本人を理解するように努め共に寄り添っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時本人の日常生活をお話ししたり、また、ご家族の方から気付いた事をお聞きしたりして本人を支えていけるよう努めている。施設内行事に留まらず外出・行事に参加してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方との生活を理解し配慮をしながら本人との関係再構築の支援を行っている。本人の様子を電話でお伝えしたり、月一回のお便りを出したりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や公園などへは出かけて行く。馴染みの人が来れば時々会いに来てもらえるように声かけを行っている。利用者さんが他の施設にいる身内の方に面会などの希望があれば出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲームをしたり散歩に行ったりする時、参加しない利用者さんには利用者さんより声かけ等をしてもらって利用者さん同士が関わり合い支えるよう支援している。食事の時等、ホールに来られない方には利用者さんから声かけしてもらったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人が入院した時等、職員がお見舞いに行き、本人やご家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接伺い希望などを聞くようにしているが、困難な場合はご家族等にお聞きし、本人本意で支援するよう努めている。プラン作成時以外でも日々のコミュニケーションの中で不安な事・困っている事・したい事など、また、体調面なども把握しその都度サービスの提供をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人から聞きとりできる人は、これまでの生活や心身状態の把握をし、困難な利用者さんはご家族よりお聞きして入居までの生活等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	チェック表や記録などに記載し、現状を把握するようにしている。一人ひとりのできる事、できない事、理解力、心身の状態など日常生活の中からも把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の聞き取り困難時はご家族からもお話しをお聞きし、職員からの意見も聞いている。	○	職員の気付きや意見を取り入れるよう努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などケア記録に記入し、スタッフ申し送りノートなどを使い情報を共有し、全員が状況を把握できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族のその時々々の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議参加メンバーをはじめ、地域の老人会の人、ボランティアなどに来てもらっている。	○	運営推進会議メンバーには地域の住民の方に随時参加してもらっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月1回隣接するデイサービスのボランティアの方による行事に参加させてもらっている。(顔なじみの方や知人と話ができる)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度を利用されている方がおられ、地域の社会福祉協議会と協力している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び、ご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院の付き添いに職員(管理者)が同行している。必要に応じてご家族にも同行してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医や主治医からの紹介で専門医や認知症について詳しい医師にいつでも受診できるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護記録をもとに利用者さんの状態を申し送り、確実な連携を行い適切な助言を得て日常の健康管理や医療活用を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者さんが入院した時は主治医や医療スタッフに本人の情報を提供し、また、入院の経過などの情報も得たりと相談や情報交換がスムーズに行えるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にご家族の方と終末期のあり方についてお聞きしているが、長期に入居されている方については随時お聞きしている。利用者さんの状態に応じてご家族の方や主治医と話し合った結果、全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	いつでも相談可能で緊急時には隣接している協力病院が24時間対応してくれる。週1回主治医の訪問診療を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時、移転先をご家族の方に見学してもらい、移転先の担当職員よく話し合ってもらっている。また、移転先には今までの生活とあまり変化なく過ごせるように関係者と情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者さん一人ひとりを尊敬し、プライドやプライバシーを損ねないようにしている。子どもに対するような言葉かけや対応にも職員同士気をつけている。また、個人情報の取り扱いにも気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせたコミュニケーションや話し方などを工夫している。自分がどうしていいかわからない等と言われた時は時間をとり、ゆっくりと本人が納得するまで話を聞き支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出したいと言われた際はその希望にできるだけ添い、その方の行きたい所に行くようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望がある方は好きなメイクやネイルをしていただき、男性の方には眉毛カットや希望のお店に行ってもらっている。	○ 外出時、お化粧品やネイル等、また、男性の方は眉カット、洋服などを決める時、職員も楽しみながら外出の支援を行っている。理容、美容は時々地域の理容院の方にも来てもらっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立時、利用者さんが食べたい物の希望をお聞きし、献立に活かしている。また、食事の後片付けや準備なども一緒にしている。	○ 献立時、できるだけ旬の食材を使用するようにしているが、鍋物や焼き肉などもしたいと思っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒など飲みたい人や、コーヒーが好きな人には個々で飲んでもらっている。また、行事のある時等は甘酒も出している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけてそれぞれの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。紙パンツやパットを使っている人は時間帯によって使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい人は毎日入ってもらっている。本人の都合に時間を合わせているが夜間は困難なため日中のみとしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安定した眠りが取れるようにしている。又、冬場足元が冷える人には湯たんぽ等して気持ちよく眠られるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	時間を決めてタバコを吸ってもらっている。天気の良い日は散歩などをしてもらっている。毎朝、タオルの交換、食器洗い、調理、お買い物等してもらっている。	○	食後や、食後の後片付けなどした後、一服したいといわれる人は毎回喫煙してもらっている。調理、洗濯物の片づけなど、その人に合わせた役割をしてもらっている。また、散歩などにも出かけ季節の変化を感じてもらっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、買いたい物があれば小さな買い物はしている。	○	外食とか外出時にお買い物をする時は事前にご家族に了解を得ている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく希望にそって、できる限り外へ出かけられるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事担当者が計画を立て、利用者さんが行きたい所に行けるよう取り組んでいる。	○	阿波踊り会館や植物園・動物園などに出かけたりしている。ご家族の方も希望すれば一緒に行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われた方には公衆電話がある場所まで誘導し、かけられるようにしている。また、手紙を出したい方は一緒に切手を買いに行ったり出しに行ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や馴染みの方が来られた時には、気持ちよく居ていただけるよう、また、気兼ねなく利用者さんとお話してできるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束の方はおられないが、身体拘束について日々の介護の中で話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中職員がいる際はできるだけ窓や出入り口の鍵をあけておくようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は職員が定期的に見回りをしたり、モニターを見て確認したりと本人の所在などを把握している。昼間でも利用者さんの様子・所在を常に把握し危険が伴わないよう安全を配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物などは夜間はスタッフルームに管理し、日中は利用者さんも使えるようになっている。	○	薬はスタッフルームで管理している。また、洗剤や刃物などは業務が終われば鍵のかかる所に片づけをしている。利用者さんに合わせ、ハサミ、裁縫箱などを持っている人もいる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒のリスクのある人は歩行などの見守りや一部介助などを行っている。また、入浴介助が一人では困難な場合には二人で介助している。服薬介助時は必ず名前確認をしている。消防署の方に来てもらい、防災の知識や火災が起きた時の対応などを勉強した。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修に行った人は報告書を書いてもらい、行けていない人には内容を把握してもらってサインをしてもらっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1度、防災訓練を行い利用者さんが避難できる方法を身につけている。	○	消防署より来ていただき、避難訓練を行った際、近隣の人に参加をしていただけるよう声かけを行ったが参加しただけなかったのこれから声かけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に考えられるリスクは説明し、また、外出時等のリスクは説明させてもらっている。散歩に行ったり、自由な時間を過ごしていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや情報交換ノートを共有しミーティングなどで話し合っている。変化があれば主治医と相談しながら早めの受診を行うよう取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報などはケース記録の後ろに説明書があり、常に確認できる。臨時薬の際は必ず日誌などに内容を記入している。状態変化時はその都度主治医に相談し、内服の変更などをしてもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に毎朝廊下をウォーキングしていただいたり、適度な水分と果物を摂取して頂いている。献立にも繊維を含んだ野菜を多く使うようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを一人でできる方にはしていただき、できない方は職員と一緒に口腔ケアを行う。夜はポリドントにつけて洗浄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員で作った献立を協力病院の管理栄養士に見てもらっている。個々に合わせた食事の提供をしている。水分補給も自分で訴えられない方は適量摂取をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染時マニュアルがあり感染があった場合に、感染拡大を予防するための対策を周知し実施している。手洗いの方法や食品を扱う際の手洗いの周知。感染時、使い捨て手袋を使用、使用後の手袋の廃棄の仕方の周知。	○	尿・便失禁時に使用した手袋は必ず脱ぎ、その手袋をはいのまま綺麗な衣類には触らない。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日一回まな板、ふきん、包丁は毎日塩素で消毒している。生魚・生肉を調理した包丁、まな板などは熱湯で洗い流し次亜塩に浸している。調理器具は洗浄後乾燥機にかけて、冷蔵庫内の食品は使用期限のチェックをしている。食材の購入は2～3日分とし、新鮮なうちに使い切っている。台所や冷蔵庫は抗菌ウェットタオルで拭いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇があり、四季折々の花を植えている。外部から来られてもわかるよう、入口にインターホンをつけてホールにいてもすぐにわかるようにしている。また、内玄関には椅子も置いて、一息つけるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に毎月貼り絵で季節感を出している。職員だけで大きな声で話したり、笑ったりしないように配慮をしている。お雛様、五月人形、七夕などと季節に合わせて飾り付けを楽しんでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が見守りをし、喫煙希望者同士が1Fスタッフルームで雑談をしながら喫煙している。ホールでテレビを見たり、居室で仲の良い者同士が話をしたりと思い思いに過ごしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの希望があれば、自由に持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者さんのその日の体調に合わせて、個々に合わせた温度調節をしている。天窓を開けたり、居室やホールの窓も開けて換気している。また、悪臭がある時は原因を探し、排水溝などはパイプマンを流している。消臭剤も配置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室に手すりをつけて安全面に配慮している。手すりを持って歩行する事によって歩行訓練にもなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に応じて役割分担をして、調理のお手伝い、ゴミ捨て、洗濯物たたみ、掃除などをしてもらっている。失敗や混乱などある時は気分転換を図り、話を聞いたりして精神の安定を図っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関間には花壇があり、四季折々の花を植えて楽しめるようにしている。また、水やりなどもしている。建物の外回りなどを散歩して、春には桜の花や花みずきの花が楽しめる。また、草抜きなどもしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフが交代で認知症研修をはじめ、救命処置（心肺蘇生法とAED）の研修などに積極的に参加を行い、ケアの実践や知識を深め日々ケアの向上に努めています。交通の便もよく（小松島市営バス、徳島バス停より歩いて約3分）、近くにはキョーエイ、コンビニ、日の峰交番、ホームセンター、遊歩道などがあり快適な環境にあります。